

平成25年度研究主題

生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育

主題設定の理由

技術・家庭科の目標は「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」であり、実践的・体験的な学習活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けさせることによって、生活や社会との関わりを深め、学習したことが生きて働く力となることをねらいとしている。

本研究部では、平成21年度に行われた第48回関ブロ茨城大会において、新学習指導要領に示された技術・家庭科の改訂の趣旨を踏まえ、よりよい生活者を育む学習指導の在り方について、全県をあげての組織的な実践研究を推進した。改訂では重要な改善の視点として、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むために、レポートの作成や論述といった知識・技術を活用する場面を設定するなど、言語の能力を高める学習活動が重視されている。技術・家庭科の授業では、衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察・判断する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動である。

そこで一昨年度は、言語活動の充実を通じた生活を工夫し創造する能力の育成を目指して研究を進め、実践事例集としてまとめ gika.net 上に掲載した。さらに昨年度は、生徒や地域の実態を踏まえた年間指導計画を各地区ごとにまとめ gika.net 上で公開することができた。

今年度は、一昨年度に集約した県内各地区の実践事例と、昨年度に集約した年間指導計画を基に、指導案の形式を立案し、その形式を用いた指導案を作成することを通して、生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育を、県内のできるだけ多くの学校の技術・家庭科の授業で実現したい。

研究の重点

平成25年度は、次の点を考慮しながら研究を進めたい。

- ① 生活や社会との関わりを深める手立てを明記した指導案の作成
- ② 言語活動の充実を通じた、生活や社会との関わりを深める指導の工夫

研究の方法

- ① 生活や社会との関わりを深める手立てを明記する指導案の形式を、8月末までに研究企画部を中心に立案・公開する。
- ② 形式の公開後、技術分野、家庭分野とも ABCD の各内容について各地区ごとに指導案を作成し、gika.net 上に公開する。
- ③ 非重点の年度にあたることから、gika.net や教育情報ネットワーク等の ICT を積極的に活用し、各校の技術・家庭科教師のコミュニケーションを活性化する。